

キャラクター名
竜夜

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	レネガイドビーイングC	カヴァー	竜神族
	オプション		年齢	不明	性別	♂
覚醒	生誕	衝動	解放	初期侵食率	40	%
出自	冬眠	経験	勧誘	邂逅	契約者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	5	0	0			5	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	1	1	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 要人の貸し 思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 永遠の炎	P	N		
勧誘: FH	P 好奇心	N 不安		
契約者: 都築京香	P 友情	N 嫉妬		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	-	RB	
効果: 衝動判定のダイス+Lv個 基本侵食値+5								
エターナルプレス	1	4	セット	至近	自身	-	Dロイス	
効果: 攻撃力Lv×4 ただし、行動値-5								
オリジン: レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	-	RB	
効果: 精神の達成値+Lv×2								
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	-		
効果: 肉体の判定ダイス+Lv+2個								
コンセ: キュマ	2	2	メジャー				シンドローム	
効果: クリ値-Lv 最低7								
魔獣の本能	1	2	メジャー	-	-	RC		
効果: RCの判定は肉体に変更								
魔獣の衝撃	1	2	メジャー	視界	-	RC		
効果: 攻撃力+5 攻撃の判定ダイス+Lv個 1ラウンド1回								
ブリザードプレス	2	3	メジャー	視界	範囲	RC		
効果: 攻撃力+Lv 組み合わせ判定のダイス-3個								
災厄の炎	2	3	メジャー	至近	範囲	RC		
効果: 攻撃力Lv×3								
プラズマカノン	2	4	メジャー	視界	単体	RC	100%	
効果: 攻撃力Lv×5								
獣の魂	2	5	オート	至近	自身	-	100%	
効果: 肉体判定の使用時ダイス+5個する。1シーンLv回								
	★							
効果:								
効果:								

俺の名は、竜夜。
まあ、これは俺の契約者がつけてくれた名前だ。
俺に名前なんて関係ないからな。

俺は、約何年間眠っていたか分からないけど、気がついたら"ゼノス"と言う組織の研究所にいた。
俺は、何なのかを分からず、彼らの話を聞いていた。
そしたら、この"ゼノス"をまとめている"プランナー・都築京香"からこう言われた。
「君は冬眠から目を覚ましたばかりだから、周りのことは何も分かっていません。
少しだけ外を見て着たらどうですか?」と言われた。
俺は彼女の言葉を聞き、外に出歩くことにした。

外の世界は興味深く、自分が眠っている間に凄くなっていったんだな~と思った。
そんな時、FHの幹部である、"アルフレッド・J・コードウェル"と言う人からFHに勧誘してきた。
だが俺は、その勧誘を断った。
理由としては、この世界に目覚めたばかりで、もっといろんなことを知りたいと言った。
そうしたら、"アルフレッド・J・コードウェル"はこう言った。
「世界を見て回った後、行く場所が無かったら、是非FHに着てほしい。君の力は興味深い」と言ってどこかに入った

その後俺は、ゼノスの研究所に戻った。
そしたら、"プランナー・都築京香"からこんなことを言ってきた。
「私と一緒に世界を回ってみませんか?あなたにとっては良いことだと思いますけど、どうですか?」と言われたら。
そしたら、俺はこう言った。